

■6月8日

宮古空港、2012年度、利用者数、前年度比12.0大幅増

宮古空港ターミナル社は6日、2012年度の宮古空港乗降客数は前年度の115万2166人と比べ13万8786人(12.0%)の大幅増の129万952人となったと発表した。これは過去最高の利用者数。

主要因に、運賃の安いスカイマークの那覇宮古線の新規参入に伴い、既存2社も大きく運賃を下げ、地元住民や島外利用者が増えたことを挙げた。

また、路線別にみると主要路線の那覇は14%増、石垣線も15%増と好調。東京直行便は2%増、多良間線は前年度並みだった。

(宮古毎日)6/7

<http://www.miyakomainichi.com/2013/06/50611/> (-> <http://www.miyakomainichi.com/2013/06/50611/>)

PEACH(LCC)CEO、関空—石垣線、搭乗率7割で年間4万人を試算

14日に「関空—石垣線」を就航させるピーチ・アビエーションの井上慎一CEOは6日、就航あいさつで石垣市役所に漢那政弘副市長を訪ね、搭乗率7割で年間4万人が石垣に訪れる見込みなどと語った。沖縄タイムスが報じた。

また、同社の国際線についても「大阪と台湾、香港を結ぶ便が好調で、アジアの熱気を沖縄に持ってきたい。海外側からも沖縄路線開設を求める声もあり、関係先と調整し、実現させたい」と就航に意欲を示した。

同路線は毎日往復2便で運航し、運賃を6190円～2万6990円で設定。価格は空席状況に連動し、早めの購入で値段は安くなる。同社は9月にも那覇—石垣線を最安3290円で運行する予定だ。

(沖縄タイムス)6/7

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-06-07_50172 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-06-07_50172)

丸紅、米航空機リース会社「エアキャッスル」へ203億円出資

丸紅は7日、米航空機リース会社のエアキャッスルに出資することを明らかにした。出資額は2億900万ドル(約203億円)。エアキャッスルが7月をめどに実施する第三者割当増資を引き受け、丸紅の出資比率は15.25%となり筆頭株主になる。格安航空会社(LCC)の台頭などで新興国を中心に航空機需要が増えており、丸紅は資本参加を通してリース事業の拡大を目指す。日経が報じた。

エアキャッスルはボーイングの737型機や欧州エアバスの320型機を中心に158機を保有。36カ国66社にリースしており、保有機体数で世界10位前後とみられる。丸紅は同社への資本参加により、出資比率に応じた持ち分機体数として24機を保有することになる。

一方、丸紅が独投資ファンドと設立したシンガポールのリース会社の保有分を合わせると計30機になる。エアキャッスルは資本増強に合わせ、2013年に50機程度をさらに増やす計画だ。

(日経)6/7

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD0701D_X00C13A6EB2000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD0701D_X00C13A6EB2000/)

アジアナ航空、米子線、利用実績、5月も50%割れ

アジアナ航空山陰支店は5月の米子—ソウル便の利用実績をまとめた。搭乗率は前年同月比1.3ポイント減の48.6%で、2カ月続けて50%を下回った。北朝鮮のミサイル発射問題などで日本人客の利用が落ち込んだ。6月の予約率(3日現在)も38.6%にとどまっている。日経が報じた。

5月の日本人の利用客数は1020人で、同28.5%減。一方、韓国人の利用客数は円安などを背景に24.4%増の914人。

同便は昨年12月に搭乗率が39.5%に落ち込み、1月からグループ旅行への支援増額など緊急対策を実施。2、3月は60%台を回復したが、4月は49.9%だった。

(日経)6/8

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO55969970X00C13A6LC0000/> (->
<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO55969970X00C13A6LC0000/>)

ジェットスター香港(LCC)、規制当局からの承認、年内に取得見込み

ジェットスター香港航空のエドワード・ラウ最高経営責任者(CEO)は6日、年内に規制当局から運航開始の承認を取得するとの見通しを示した。

WSJによると、ラウ氏は、承認が得られ次第、運航を開始するために、数日中に香港政府に空中権を申請する、と述べた。

また、香港で操縦士や客室乗務員など約70人を採用したという。ジェットスター香港は今後数カ月でさらに50人採用する予定だ。

香港を拠点に定期旅客便の運航を計画している航空会社は、特定の規制要件を満たさなければならない。具体的には、香港の航空当局から航空輸送事業の営業免許を、香港空運牌照局から空中権を取得する必要がある。

当局は、ジェットスター香港が昨年7月に行った営業免許申請をまだ承認していない。

当初の運航計画によると、同社は最初の3年間は香港からの飛行時間が5時間以内の目的地に向けてエアバスA320型機18機を運航する。

ラウ氏は、ジェットスター香港の運賃は従来の航空会社の最大50%程度になるとの見通しを示した。

(WSJ)6/7

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887323614804578530642912907104.html> (->
<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887323614804578530642912907104.html>)

メルパティ航空、日本人と韓国人の客室乗務員採用

インドネシアのメルパティ・ヌサンタラ航空は、日本人と韓国人の客室乗務員を採用したと明らかにした。国内最大の観光地であるバリ島から東部地域を結ぶ路線に配置し、両国からの観光客誘致につなげたい考えだ。7日付ビジネス・インドネシアなどが伝えた。

採用人数は、大学・短大卒の15人。半年間の訓練後、運輸省航空課による1カ月の研修を経て業務に就く。当初はバリ島デンパサール～隣島のロンボク島マタラム路線と、デンパサール～ティモール島クパン路線に配置する計画だ。

(NNA ASIA)6/8

<http://news.nna.jp/free/news/20130610idr001A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130610idr001A.html>)